

学校法人SOLAN学園は、子ども主体の探究学習を軸に、ICTや英語教育を活用した先進的な学びを展開する私立校。自然豊かな環境を活かし、ビオトープ整備や森林観察などの体験を通じて、環境意識を育む教育にも力を入れています。学びと環境保全を融合させた独自の教育が特徴です。子どもたちは地域の自然とふれあいながら、環境問題を「自分ごと」として捉え、持続可能な社会づくりに必要な視点と行動力を育んでいます。今回は、副校長の三宅貴久子さんにいろいろとお話を伺いました。



学校法人SOLAN学園
副校長 三宅貴久子さん

●環境活動を継続して始めたきっかけは何ですか？

2021年、開校当初の1年生が、ザリガニを水槽で飼っていました。「なんか水槽じゃ、かわいそうだなあ」「もっと広いところでのびのびと過ごさせてあげたいな」という声が出てビオトーププロジェクトを立ち上げました。専門家の方にもきていただき、ビオトープについて学び、学校のグラウンドの端にビオトープを作ることになりました。子どもの興味・関心から始まった環境活動です。

●環境活動を続けてよかつたと感じることはありますか？

1年生の児童が、「自分たちが飼っていたザリガニが過ごしやすい環境を作りたい」という思いから活動が始まりました。その思いや願いが実際に形になったこと

で、学年が上がるにつれて「ビオトープを作る意味って？」「より良い環境って何だろう？」といった問い合わせが自然と生まれてきました。そうした問い合わせに対して、子どもたち自身が考え、調べ、行動するようになっていった姿を見て、環境活動を続けていて本当によかつたなと感じています。

●環境活動を続ける上で、支えとなっている「思い」は何ですか？

私が環境活動を続けるうえでの原動力は、子どもと過ごした川での体験です。放課後には川を観察し、大潮のときには川底に降りてみたり、源流を探す旅に出かけたりと、さまざまな角度から川を見つめました。ある日、子どもの提案で釣りをしていたところ、ウナギが釣れたこともあります。干潟ではマメコブシガニを

五感を使って自然を味わう体験こそ、環境活動に取り組む原点ではないかと考えます。

発見するなど、日々の観察の中で新しい発見が次々とありました。源流を探す活動では、川の始まりとなる一滴の水を見つけた瞬間、子どもたちとともに大きな感動を味わいました。冬に源流を訪れた際には、あたり一面が銀世界となり、神聖な空気に包まれていたことを今でも鮮明に覚えています。今ではインターネットで多くの情報を得られますが、自然の中に身を置き、五感で感じる体験こそが、環境活動に取り組む原点だと感じています。こうした体験が、私の活動を支える大切な「思い」であり、未来を担う子どもたちにもぜひ伝えていきたいです。



環境学習の様子
(小学4年生)

森・緑の育成活動

特定非営利活動法人
海上の森の会

愛知万博記念の森 「海上の森 健全化10年プロジェクト」

瀬戸市内の海上の森において、「健全化10年プロジェクト」で計画した里山の森の森林再生及びコアジサイ・ヤマザクラ群落周辺の保全整備に加え、里山サテライト内にある休憩施設の再整備を実施しました。



森づくりグループの活動は、急傾斜で足場も悪く各メンバーが周囲を注意しながらの作業となります。常にスキルアップを心がけて行う姿勢は、活動の模範となっています。

ヒノキの間伐材で、古民家がある里山サテライトの木製ベンチを作りました。皆さんに気持ちよく使ってもらえると思います。

理事長 高山 康博さん

参加した方の声

水と緑の恵み体感

豊橋市

水源地をめぐる旅

東三河産材を利用した箸づくりを体験したほか、大島ダムの見学や、現在建設中の設楽ダムについて模型を使った説明を受けるバスツアーを実施し、水源地への理解・関心を深めました。



「水」や「水源林」について、身近に感じるとともに、豊川(とよがわ)水源地への関心が高まり、水と森の関係への理解を深めることができたのではないかと思います。

豊橋市企画部政策企画課
伊藤 友香 さん

身近な水と森林というテーマがはっきりしていてわかりやすかったです。生活に欠かせない水や森のことを考えるきっかけになりました。

参加した方の声

森林生態系保全の学習

名古屋経済大学

本宮山南麓の里山生態系学習プロジェクト ～体験型の里山学習拠点の実現をめざして～

名古屋経済大学の所在する本宮山南麓(犬山市)で、植生調査、植物名ラベル作成、及び水質調査を行いました。また、先行する里山整備の事例として、犬山里山学センター、今井森林愛護会などで学習活動を行いました。



本事業では、地域のNPOや学術機関の協力を得て、学生・市民が尾張北部の生態系を学ぶ学習活動やキャンパス里山化をめざした活動を展開しています。

犬山学研究センター長
中村 真咲さん

大学に近い本宮山周辺に貴重な生態系が残されていることを誇らしく思いました。これを将来に継承していくことが今後の課題だと思います。

参加した方の声

太陽・自然の恵み学習

幸田町

緑のカーテン事業と環境学習講座

幸田町内の公共施設、保育園や小学校等で緑のカーテンを育成しました。また、小学生を対象に環境学習講座を開催し、近年の環境問題やエコ活動を学習してもらうことで、二酸化炭素の排出量削減につなげています。



緑のカーテンは、温度上昇を抑えたり温室効果ガスの削減に貢献するだけでなく、野菜を収穫したときの喜びやきれいな花を見たときの豊かさや安らぎも与えてくれています。

幸田町環境経済部環境課 壁谷 洋紀さん

緑のカーテンがあることで、日陰の確保ができ涼しい環境が整うので、とても助かっています。

参加した方の声

独自提案による環境保全活動・環境学習

特定非営利活動法人
アースワーカーエナジー

天使の森プロジェクト

岡崎市東端中山間地において、未利用人工林を伐採利用し、跡地を生物多様性豊かな林にするための植樹を1,000本程実施しました。また天使の森と山麓で自然観察会や環境学習教室を開催して、小学生・中学生から大人まで生物多様性の豊かな林の大切さを学習しました。



天使の森の植樹活動は10年目を迎え、みんなで植えた苗木が森になってきました。続けて来ていただける方も多く、自分の森としての意識が高まってきています。

理事長 小原 淳さん

私は小学生ですが教科書に私の行った天使の森が載っていました。次回はぜひボーイスカウトの仲間を誘って森づくりをしたいです。

参加した方の声

生態系ネットワーク形成

知多半島生態系ネットワーク協議会

知多半島における生態系ネットワーク形成 ～異なる特徴を有するモデル地区における 生態系ネットワーク形成の計画と施工～

地域の学生や専門家が参加するワークショップによって生まれたアイデアをベースに、株式会社豊田自動織機東知多工場の敷地内に、陸生の昆虫などのすみかとなる生き物マウンドを造成しました。



周辺で伐採した外来種の枝葉などを再利用したり、工場で発生した廃棄物をリサイクルした溶融還元石（エコストーン）を利用するなど、再生をテーマとした生き物共生施設となりました。

会長 大東 憲二さん

ワークショップで生まれたアイデアが、学生仲間や専門家の助言で具体化され、実際に施工されたことに達成感を得られました。

参加した方の声